

『Mind Charging』

第 178 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 12 月 15 日

漫画：キャプテン翼『大空翼』の名言



1.1 倍頑張れば 10 人で 1 人分カバー出来るんだ！

サッカーという団体競技だからこそその発想であり、チームという『ひとつの小さな社会』の中で生きるための“心得”とも感じる言葉です。それと同時に、『それぞれがもう少しだけでいいから頑張ることで、1+1が2ではなく、もっと大きなものになる！』というような、まさに人間という『生身』だからこそ無限のエネルギーと可能性を感じる言葉だと思います。

現在、みなさんは学校やクラス、クラブなど様々な団体に所属しています。同じ所属のメンバーの人数や特性などによって様々な得意分野や課題があると思います。そして、その所属先をより良いものにするための自分の役割が 1.5 倍できる人もいれば、1.0 倍に満たない人もいます。後者は自分の役割が全うできていないということで、まずは最低限をクリアすることを課題として努力するのは当然です。では前者はどうでしょうか。自分の役割を全うできているから現状維持でいいのでしょうか。そんなことはないと思います。時々聞く話ですが、『私はこんなに頑張っているのにあの人は自分のことさえやらない。不公平だ。』というものがあります。頑張ることは所属先のためでもあり、自分のためでもあります。自分の頑張りが誰かを救うことや所属先の成長となり、また自分の成長にも繋がると思うことができれば、辛い中にも少しの“余裕”が生まれるのではないのでしょうか。その余裕があれば、現在は自分の役割も全うできない人を、やらない人ではなく“まだ”できない人と感じて思いやりの心で見えあげられると思います。簡単そうで難しい余裕を持つことを正智深谷で学び、大きな『人間力』を身につけてほしいと願っています！（編集委員：入試広報室 鈴木）

『キャプテン翼』(キャプテンつばさ)は、高橋陽一による日本のサッカー漫画。および、それを原作にした派生作品。「ボールが友達」が信条の主人公・大空翼をはじめ、ひた向きにサッカーに打ち込む少年達の姿を描き、連載時に日本国内でサッカーブームを起こすと、後にプロサッカー選手となる多くの選手達に影響を与えた。略称は「キャプ翼」(キャプつば)、 「C翼」など。「ボールは友達」が信条の主人公・大空翼の活躍と成長を描いたサッカー漫画である。翼が後にチームメイトとなる若林源三らとの出会いを経て、さまざまなライバル達との戦いを制し、やがて国外へと活躍の場を広げていく姿を描いた。サッカーの楽しさや魅力を伝えることに重点が置かれた爽やかな作風は、従来のスポ根漫画に代わる新しいスタイルのスポーツ漫画として読者に受け入れられた。1983年にアニメ化されると日本国内でサッカーブームを起こし、それまでマイナーな競技と見做されていたサッカーの人気と競技人口拡大に寄与した。(Wikipedia 参照)